

教団新報

定 価 1部 144円(本体 133円+共 206円)
予約購読料 1年分 千共 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 道家紀一
編集主筆 渡邊義彦
印刷所 株式会社きかんし



左から、長尾書記、小西議長、保科副議長

教区総会報告

2017 年度

2

東北

兵庫

奥羽

西中国

東海

京都

機構改正・財政削減に着手

東日本大震災支援の継続を確認



東北

東北教区 第72回東北教区総会が5月23日、24日、仙台青葉荘教会、東北教区センター「エマオ」を会場に開催された。出席議員は開会時151名中127名だった。組織会後直ちに、昨秋の教師検定試験合格者に対して16年11月に行われた按手札早期執行(2名)の報告を承認し、本総会では按手1名、准允5名を執行、正・補教師を新たに立てた。

小西望議長は議長報告で、提案を予定していた台湾長老教会嘉義中会との宣教協約についての審議は、先方の都合により今総会では行えないことを報告、事情については現在問合せ中とした。東日本大震災救援について「2016年度末に教団

救援対策本部は解散したが、教区は昨年度総会で確認したとおり2019年3月まで働きを継続する。教区内19教会が会堂・牧師館の建て替え、大規模修繕に取り組み、内14教会が教団からの総額1億6085万円の貸付を受けた。現在9教会が最長20年の返済に向かっている。小規模教会の返済を支援する全国募金は広く覚えられ、これまで1300万円を6教会に配

分した」とした。立ち入り制限が解除された地区に建つ小高、浪江西伝道所がなお休止中であること、また被災者支援センター・エマオ、放射能問題支援対策室・いずみを長く続けるため活動を縮小しつつも継続してゆくことを報告した。「伝道の歴史から小規模教会の多い教区だが、小さな町にも十字架が立てられ礼拝する群れが起これれば歩んでいることは主から与え

られた豊かさであり、タラントを生かし伝道宣教を進め主の御委託に応えよう」と述べた。片岡舘也建議請願審査委員長は、総会開催前に届けられた建議、請願はなかったことを報告したうえで、会期中に提出された建議案について緊急性を認めるとして採択が妥当であると報告。これを承認し審議した。「共謀罪強行採決に抗議する緊急声明」(提案者 布田秀

治、賛同者20名)について、平和を希求することには異存はないが、本件に對して教会には様々な考え方、姿勢があり得るとして、教会性を持たない教区総会が一定の考え方を支持し声明とすることに反対する意見、太平洋戦争時、教会が戦争、天皇制への反対を明確にしなかったことの反省、思想・信条、信教の自由は侵害されてはならないなどの賛成意見がそれぞれ

述べられた。109名中71名の賛成により建議を採択し、教団内諸教会・伝道所、日本国政府、衆参両議院等に声明として発表することとなった。2338万円の経常会計予算を可決した。なお、決算・予算審議について、岡村宣財務審査委員長(矢吹)は総会が3読会方式であることを守り審査報告を審議に明確に反映するように求めた。すべての選挙において議員番号のみを記す仕方で予備選挙、本選挙を行い、それぞれ候補者が本選挙前に所信を述べた。三役選挙は、小西望議長

(仙台北)、保科隆副議長(福島)が再選、3期目を担う。転任による前任者の残任期間を前総会から担った長尾厚志書記(仙台ホサナ)が議長、副議長推薦で再任された。また、高橋真人宣教部委員長(会津坂下)を選挙によって再任した。常置委員選挙結果【教職】関川祐一郎(石巻山城町)、布田秀治(いづみ愛泉)、片岡舘也(若松栄町)【信徒】石原裕子(常磐、高橋嘉男(名取、齋藤一(会津農花センター、山都) (新報編集部報)

真の互助制度構築が訴えられる



兵庫

で、提案を予定していた台湾長老教会嘉義中会との宣教協約についての審議は、先方の都合により今総会では行えないことを報告、事情については現在問合せ中とした。東日本大震災救援について「2016年度末に教団

救援対策本部は解散したが、教区は昨年度総会で確認したとおり2019年3月まで働きを継続する。教区内19教会が会堂・牧師館の建て替え、大規模修繕に取り組み、内14教会が教団からの総額1億6085万円の貸付を受けた。現在9教会が最長20年の返済に向かっている。小規模教会の返済を支援する全国募金は広く覚えられ、これまで1300万円を6教会に配

分した」とした。立ち入り制限が解除された地区に建つ小高、浪江西伝道所がなお休止中であること、また被災者支援センター・エマオ、放射能問題支援対策室・いずみを長く続けるため活動を縮小しつつも継続してゆくことを報告した。「伝道の歴史から小規模教会の多い教区だが、小さな町にも十字架が立てられ礼拝する群れが起これれば歩んでいることは主から与え

られた豊かさであり、タラントを生かし伝道宣教を進め主の御委託に応えよう」と述べた。片岡舘也建議請願審査委員長は、総会開催前に届けられた建議、請願はなかったことを報告したうえで、会期中に提出された建議案について緊急性を認めるとして採択が妥当であると報告。これを承認し審議した。「共謀罪強行採決に抗議する緊急声明」(提案者 布田秀

治、賛同者20名)について、平和を希求することには異存はないが、本件に對して教会には様々な考え方、姿勢があり得るとして、教会性を持たない教区総会が一定の考え方を支持し声明とすることに反対する意見、太平洋戦争時、教会が戦争、天皇制への反対を明確にしなかったことの反省、思想・信条、信教の自由は侵害されてはならないなどの賛成意見がそれぞれ

述べられた。109名中71名の賛成により建議を採択し、教団内諸教会・伝道所、日本国政府、衆参両議院等に声明として発表することとなった。2338万円の経常会計予算を可決した。なお、決算・予算審議について、岡村宣財務審査委員長(矢吹)は総会が3読会方式であることを守り審査報告を審議に明確に反映するように求めた。すべての選挙において議員番号のみを記す仕方で予備選挙、本選挙を行い、それぞれ候補者が本選挙前に所信を述べた。三役選挙は、小西望議長

(仙台北)、保科隆副議長(福島)が再選、3期目を担う。転任による前任者の残任期間を前総会から担った長尾厚志書記(仙台ホサナ)が議長、副議長推薦で再任された。また、高橋真人宣教部委員長(会津坂下)を選挙によって再任した。常置委員選挙結果【教職】関川祐一郎(石巻山城町)、布田秀治(いづみ愛泉)、片岡舘也(若松栄町)【信徒】石原裕子(常磐、高橋嘉男(名取、齋藤一(会津農花センター、山都) (新報編集部報)

述べられた。109名中71名の賛成により建議を採択し、教団内諸教会・伝道所、日本国政府、衆参両議院等に声明として発表することとなった。2338万円の経常会計予算を可決した。なお、決算・予算審議について、岡村宣財務審査委員長(矢吹)は総会が3読会方式であることを守り審査報告を審議に明確に反映するように求めた。すべての選挙において議員番号のみを記す仕方で予備選挙、本選挙を行い、それぞれ候補者が本選挙前に所信を述べた。三役選挙は、小西望議長

救援対策本部は解散したが、教区は昨年度総会で確認したとおり2019年3月まで働きを継続する。教区内19教会が会堂・牧師館の建て替え、大規模修繕に取り組み、内14教会が教団からの総額1億6085万円の貸付を受けた。現在9教会が最長20年の返済に向かっている。小規模教会の返済を支援する全国募金は広く覚えられ、これまで1300万円を6教会に配

分した」とした。立ち入り制限が解除された地区に建つ小高、浪江西伝道所がなお休止中であること、また被災者支援センター・エマオ、放射能問題支援対策室・いずみを長く続けるため活動を縮小しつつも継続してゆくことを報告した。「伝道の歴史から小規模教会の多い教区だが、小さな町にも十字架が立てられ礼拝する群れが起これれば歩んでいることは主から与え

られた豊かさであり、タラントを生かし伝道宣教を進め主の御委託に応えよう」と述べた。片岡舘也建議請願審査委員長は、総会開催前に届けられた建議、請願はなかったことを報告したうえで、会期中に提出された建議案について緊急性を認めるとして採択が妥当であると報告。これを承認し審議した。「共謀罪強行採決に抗議する緊急声明」(提案者 布田秀

治、賛同者20名)について、平和を希求することには異存はないが、本件に對して教会には様々な考え方、姿勢があり得るとして、教会性を持たない教区総会が一定の考え方を支持し声明とすることに反対する意見、太平洋戦争時、教会が戦争、天皇制への反対を明確にしなかったことの反省、思想・信条、信教の自由は侵害されてはならないなどの賛成意見がそれぞれ

述べられた。109名中71名の賛成により建議を採択し、教団内諸教会・伝道所、日本国政府、衆参両議院等に声明として発表することとなった。2338万円の経常会計予算を可決した。なお、決算・予算審議について、岡村宣財務審査委員長(矢吹)は総会が3読会方式であることを守り審査報告を審議に明確に反映するように求めた。すべての選挙において議員番号のみを記す仕方で予備選挙、本選挙を行い、それぞれ候補者が本選挙前に所信を述べた。三役選挙は、小西望議長

(仙台北)、保科隆副議長(福島)が再選、3期目を担う。転任による前任者の残任期間を前総会から担った長尾厚志書記(仙台ホサナ)が議長、副議長推薦で再任された。また、高橋真人宣教部委員長(会津坂下)を選挙によって再任した。常置委員選挙結果【教職】関川祐一郎(石巻山城町)、布田秀治(いづみ愛泉)、片岡舘也(若松栄町)【信徒】石原裕子(常磐、高橋嘉男(名取、齋藤一(会津農花センター、山都) (新報編集部報)

述べられた。109名中71名の賛成により建議を採択し、教団内諸教会・伝道所、日本国政府、衆参両議院等に声明として発表することとなった。2338万円の経常会計予算を可決した。なお、決算・予算審議について、岡村宣財務審査委員長(矢吹)は総会が3読会方式であることを守り審査報告を審議に明確に反映するように求めた。すべての選挙において議員番号のみを記す仕方で予備選挙、本選挙を行い、それぞれ候補者が本選挙前に所信を述べた。三役選挙は、小西望議長



三役による真剣な議事運営



教区総会の取材を終えようとしている。いつもこの時期に思うのは、主観と客観のせめぎ合いである。▼会議で語られたことをすべて報告しようと思えば、発言録としてテープ起こしなどして何頁にもわたる記録となる。語ったことをそのまま文字とするのだから最も客観的と言えるのかも知れない。しかし議事録であってもこうはならない。書記による取捨選択により手際良く、議論されたこと、決議したことが記録として残る。

新報記事はなお紙幅が限られるゆえ、記者たちの選択幅はもっと大きくなり主観と客観のせめぎ合いが起る。▼けれども、幾つかの教区を取材すると、その教区に特徴的な議題や慣習となっている議事進行も際立ってくる。議事録ではかえって平板となり目立たなくなることがもしれない。他教区から転任してきたり、教区を跨いで教会を転会したりがあると同じような経験もあることだろう。中には当たり前と思ってしまうことも、外から来て見ると客観性を持つこともある。▼いずれにしても、どの会議もが神の御前の会議として真剣な討議を重ねている。今回もこれを良く伝えることができようかと願っている。

（原田裕子報）

二つの協議会を開催

京都教区 第81回京都教区総会が行われた。京都教区は長年5月の連休中に定期総会を行ってきたが、今回は5月22～23日に洛陽教会で開催した。開会時107名の議員出席で、2日にわたり三役・常置委員



左から、今井副議長、入議長、李書記

選挙を含めた法定議案や建議案などを扱った。主任担任教師の逝去に伴う富士見台伝道所解散や桐原伝道所廃止を承認し、教会・伝道所数は76となった。

人々の共生を創り出すコミュニティ施設である。映像による日常活動の紹介後、同力フェに關する社会学者から地域活動におけるキリスト教と市民活動の連携につき解説を受け、スタッフから個人史（教会との出会いを含めて）を通して同力フェの意義が語られた。

協議会1では石橋秀雄教団議長に陪席を要請し、「教団宣教基礎理論改訂案・教団の今後を巡って」をテーマに協議の時をもった。教団議長は現行の宣教基礎理論（試論）と第2次草案を比較しつつ伝道への熱意を語ったが、会場からは「第2次草案の宣教論は、世界・人間の現実から離れている」、「人間を宣教の対象としか見ない姿勢なら傲慢だ」などの発言が続き、双方の問題意識が噛み合うまでには至らなかった。

協議会2では、教区が市民有志と共に運営する「バザールカフェ」の活動報告を受けた。同力フェは単なる喫茶店ではなく、地域社会で多様な人々の共生を創り出すコミュニティ施設である。映像による日常活動の紹介後、同力フェに關する社会学者から地域活動におけるキリスト教と市民活動の連携につき解説を受け、スタッフから個人史（教会との出会いを含めて）を通して同力フェの意義が語られた。



京都

で（教区アジア宣教活動委員会の総括）、地域での多様な人々の共生を創り出す。それはまさに教区の宣教姿勢でもあり、協議会1で感じられた虚しさや癒すものが協議会2にあったとも言えよう。

2日目は逝去者記念礼拝後に、准允式・按手礼式で3名の准允と2名の按手を行った。議事では建議5件を可決した（以下、題の要旨）。①山城博治さんの長期不当勾留への抗議と米軍基地県内移設反対の声明、②共謀罪（組織犯罪処罰法改正案）法案廃案を求め、戦争の出来る国づくりに反対する声明、③日本国憲

法に関する京都教区の態度表明、④外国人教師の滞在資格に関わる問題を教区の課題とする、⑤クラッパードインに関するCGMBへの要請。三役選挙結果

【議長】入治彦（京都）、【副議長】今井牧夫（京北）、【書記】李相勁（福知山）

常置委員選挙結果

【教職】月下星志（上鳥津）

（入 治彦報）

羽、横田明典（近江金田）、井上勇一（洛南）、望月修治（同志社）、森下耕（洛陽）、浅野献一（室町）、深見祥弘（近江八幡）

【信徒】谷口ひとみ（八幡ぶどうの木）、菅恒敏（京都）、志賀勉（紫野）、奥野力ネコ（膳所）、大下真弓（京都葵、原田潔（大津東、永島鉄雄（章津）

（入 治彦報）

☆教会幼稚園融資金募集☆

幼稚園の土地拡張、増改築、新築のため、幼稚園融資金2017年度分を次の要領で募集します。

◎金額 50万円～300万円

◎返済期限 5年以内

◎利子 期限内 年1% 期限後 年2%

2017年度は総額600万円を2～3の教会幼稚園に貸し出します。希望幼稚園は、教区事務所を通して教団教育委員会まで申し込んでください。締切は8月31日。融資規定、申請書は教育委員会（☎03-3202-0544）。

教師の継続・生涯教育

菅原 力

教師委員会の働きは教規によれば、①教師養成機関に関する事項、②教師の育成、研修および留学などに関する事項、③教師の人事交流に関する事項、④教師の戒規に関する事項、とあります。どれも重要な事項ですが、特に委員会が喫緊の課題として検討しているのは、②の「教師の育成、研修」といことです。教団がたてた一人の教

委員会コラム

師が主のご委託にこたえて歩んでいくためには、主の導きの中で、さまざまな形の学びや支えが必要でありましよう。その一つの大事な柱として、教師の継続教育、生涯教育ということがあります。それは教団という教会の

現在、伝道推進室主催で教師の継続教育の取り組みが続けられています。これらの蓄積を活かしつつ、今後、教師になって10年までの教師を対象とする10年研修、さらには20年研修といったものも視野に入れ、教団の教師の継続教育の場をつくっていくことが教師委員会の大きな課題だと言えます。

（教師委員長）

事務局報

補教師登録

田中尚美、見城康佑



17年4月26日逝去、91歳。静岡県生まれ。55年東京神学大学大学院卒業。60年より六角橋教会を牧会し09年隠退。遺族は息・出口さん。



三井啓示氏（隠退教師）17年4月2日逝去、83歳。東京都生まれ。59年青山学院大学大学院卒業。同年より桜木、福井神明、中目黒、仙台東橋教会を牧会し08年隠退。遺族は息・平井義人さん。出口光子氏（隠退教師）

野田 祥	（2017・4・29受允）	就（主）塚本吉興	信州	田辺	辞（主）磯部紀代子	仁川	辞（代）中野敬一
稲葉義也、牛田 匡、	（2017・5・2受允）	就（主）古屋治雄	南山	片瀬	就（主）南澤 望	福崎	辞（主）伊藤美恵子
永富美加、宮原直道	（2017・5・3受允）	相愛 辞（主）山畑 譲	京都葵	聖徒	就（主）磯部紀代子	福崎	辞（主）伊藤美恵子
中濃 辞（主）小田部正一	（2017・5・8受允）	永山 辞（主）西川幸作	川谷	信愛報恩会	就（主）今村愛喜	玉川	辞（主）土井栄子
張 宇成	（2017・5・13受允）	愛知老人コミュニティセンター	丹波新生	原宿	就（主）今村愛喜	東奥義塾高校	就（主）伊藤多香子
佐野真也、佃 雅之	（2017・5・13受允）	就（主）西川幸作	辞（主）竹ヶ原政輝	市川三本松	就（主）川上咲野	就（主）コルドウェル・ジョン	
遠藤誠一	（2017・5・16受允）	石川 就（主）小田部正一	高の原	萩	就（主）新保能宏	奥村益良、正田勝子、	
飯田平和、合田やす子、	（2017・5・23受允）	関東教区	大正めぐみ	津和野	辞（主）新保恵子	井上 馨、石丸泰樹、	
竹花牧人、中村正俊、	（2017・5・24受允）	就（主）森野善右衛門	鎌倉雪ノ下	新発田辞（代）下尾治郎	就（主）新保能宏	三輪從道、本村和子、	
今井圭介、韓 亨模、	（2017・5・29受允）	就（主）大澤正芳	就（主）大澤みずき	就（主）大澤みずき	就（主）大澤みずき	伊藤美恵子	
大谷昌恵、新佐依子	（2017・5・29受允）	就（主）豊田通信	神和	就（主）今井このみ	就（主）今井このみ	隠退より復帰	
大森照輝、本間優太	（2017・5・29受允）	就（主）豊田通信	淀川	就（主）井上 理	就（主）井上 理	小淵康而、樋口義也	
今井裕子、上田 文、	（2017・5・29受允）	就（主）宮川経宣	仙台五橋辞（主）宮川経宣	就（主）豊田通信	就（主）豊田通信	休職より復職	
大森照輝、本間優太	（2017・5・29受允）	就（主）豊田通信	大和郡山辞（主）尾島信之	就（主）豊田通信	就（主）豊田通信	仲程愛美	
大谷昌恵、新佐依子	（2017・5・29受允）	就（主）豊田通信	南大阪	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	キリスト教教育主事異動	
高雄日本語教会	（2017・5・29受允）	就（主）岩河敏宏	塩釜東就（代）関川祐一郎	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	京都復興 辞 河 礼子	
蛙野	（2017・5・29受允）	就（主）岩河敏宏	山都	就（主）荒井 仁	就（主）荒井 仁	塚口 辞 紙田茉莉	
福岡中部辞（主）古屋治雄	（2017・5・29受允）	就（主）岩河敏宏	大和キリスト	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	兵庫教区 就 紙田茉莉	
		就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	信徒伝道者異動	
		就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	京都 就 室井明日香	
		就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	平安 就 梶田翔希	
		就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	就（主）岩河敏宏	川谷 就 金澤友幸	

▼救援対策継続事業委員会▲

本部事業の継続事項を確認

3月6日の救援対策本部最終会議に引き続き、3月16日及び5月8日、本部事業の残務処理を担当する継続事業委員会が開催された。

第1回委員会 冒頭委員長組織が行われ、委員長に佐々木美知夫・前対策室長、書記に真壁巖・前本部委員、財務委員長に佐久間文雄・前本部財務委員長を互選し、その他、保科隆・前本部委員、陪席に道家紀一総幹事事務取扱、飯島信担当幹事で組織することが確認さ

れた。

続いて常議員会から付託された事業内容として①被災教会からの貸付金返済受付等管理業務、②教団救援対策本部よりの申し送り事項【東北教区被災者支援センター・エマオ活動支援、東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」活動支援】、③教団救援対策事業全記録刊行業務、④教団救援対策本部会計処理業務、⑤その他、教団救援対策本部活動からの継続事業を改めて確認したほか、計

良祐時財務幹事が2月末までの収支状況を、飯島担当幹事が会堂・牧師館復興貸付金返済状況、補正予算案に基づく5団体などへの支援執行などを報告した。また、エマオ仙台で使用していた「ハイエース」廃車にともなう件を協議した。

第2回委員会 継続事業委員会メンバー以外に、前本部委員、奥羽・東北・関東の各教区議長、被災3教区幼児教育担当委会委員長、事務局幹事が陪席して行われた。

佐久間財務委員長から口座を閉じた時点での国内外募金結果、担当幹事から貸付金返済状況との間の活動、教区議長から被災教会の様子や現時点での課題などが報告された。

主な協議事項として①本部活動終了に伴う決算、②「国際青年会議in京都」報告書を全教会へ送ることへの提言、③青年会議の声明に盛り込まれた内容の取扱い、④担当幹事の任期中の仕事内容の確認などがなされ、石橋



前本部委員、3 教区議長らと共に

第14回日韓連合異端似而非対策セミナー

5月25、26日、韓国南水原永樂教会を会場に、第14回日韓連合異端似而非対策セミナーが開かれ、日本側は日本基督教

団、在日大韓基督教会、カトリック中央協議会、日本聖公会、バプテスト連盟を含む16名、韓国側は大韓イエス教長老会

(PCK)の35名の計51名の参加。今回の講演は、卓志一教授(釜山長神学大学校)「韓国異端の動向分析及び対応策―異端と政治権力の癒着を中心に」と、川島堅二教授(農伝・恵泉女学園大)「日本における『摂理』の活動と対策」であった。

卓講演では、セウォル号事件をきっかけに起こった朴大統領から文大統領への政権交代により、韓国政界がカルト系諸団体との癒着関係を明確に否定するようになり、「似而非集団規制法」制定の動きまで出始めたことが報告された。朝鮮戦争期

に生まれた多くの団体が、現在女性教祖に代替わり継承されていく形で生き残りを図ろうとしている中で、これは注目すべき動きであろう。川島講演では、信者への猥褻行為で10年の刑で収監されていた「摂理JMS」の教祖が来年にでも出所するのを目前にして、日本で盛んに布教活動がなされている実態が報告され、韓国側から来

年韓国で開催される冬季オリンピックに関する動きがあるとの報告もなされた。セミナー後、新天地本部調査、日帝時代の殉国記念館のある堤岩里教会

訪問等がなされた。今回のセミナーに先立つ23、24日には、日程の詰まった中、大韓キリスト教長老会(PROK)事務局、韓国カトリック中央協議会事務局、PCK総幹事、大韓聖公会事務局訪問もなされ、PCKの長老会神学大学の礼拝、3箇所教会の水曜

礼拝を回って、韓国生まれのキリスト教系カルト宗教被害と対策を訴えた。各教派に対策機関が次々と設置され、私たちの協力要請にも各教派とも積極的に応じるなど、韓国キリスト教界の意識の変化を大きく感じた訪韓の旅であった。(小海 基報)



長老会神学大学訪問

公益社団法人 好善社 主催
「ハンセン病を正しく理解する講演会 2017」(聴講無料)
ハンセン病回復者と家族に寄り添って

【関東の部】
◎日時 6月24日(土)午後2時～4時
◎場所 国立ハンセン病資料館
◎講師 黒坂愛衣さん
(東北学院大学経済学部准教授)
◎連絡先 公益社団法人好善社
(TEL 03-3712-3845)

【関西の部】
◎日時 7月1日(土)午後2時～4時30分
◎場所 日本キリスト教会西宮中央教会
◎講師 青木美恵さん
(国立療養所 邑久光明園園長)
◎連絡先 長尾文雄(TEL 06-6418-5430)



成田喜代司さん

命を見つめ続けて



1974 年、庄原教会より遠州教会に転会。妻・由紀子さんと共に。

成田夫妻は日曜の朝礼拝前、道行く人に『このころの友』を配り、教会の存在を伝えている。

産婦人科医として生きた喜代司さんは、「僕は二人の犠牲で生きているのです。一人はイエス様。もう一人は母です。結核に罹って、命が危ない、と言われていたのに、僕を産んで、3ヶ月で亡くなりまして。僕は十字架の贖いを、そのことと重ねて考えさせられるのです」と語る。命を見つめ続ける務めにあったことに深い思いを抱き続けたことを感じさせられる言葉である。

喜代司さんは順天堂大学医学部に合格。一人の教授に導かれ、日本ホーリネス教団小

岩教会で受洗。その後、鳥取大学医学部に入學し、米子教会に出席する。東京・富士見町教会で受洗し、故郷の米子教会に出席していた由紀子さんととはここで出会い結婚、一男一女を授かった。博士号取得後、移住。広島・庄原教会に籍を置く。当時の笹尾清史牧師との家庭的な交わりに感謝をしている、とのことである。そして浜松の聖隷病院に移り、遠州教会に転会。約20年、産婦人科医として勤めた。その時にこう思っていた。

「産まれる赤ちゃんが『オギャー』と泣く。そして精一杯『息』をする。それは神様の

あり、将来の社会を創るための備えの場である。神の愛される存在として子どもたちが大きく成長するようにと祈りが込められる場である。子どもたちも神の祝福の中で日々をしつかりと生き、将来に向かって行く。この幼稚園を支える教会の歩みもまた、主の御手の内に在る。今、主の働きを担う人々の礼拝と信仰生活が大切にされてこそ将来を担う人々が育っていく。教会の歩みこそ神の祝福と力が途切れずに注がれる場である。(教団総会副議長 佐々木美知夫

幼稚園の庭に大きな桜の木が4本ある。今、新緑が深まり、子どもたちのために大きな木陰を作っている。涼しい風を受け、子どもたちは元気に遊んでいる。この大きな木陰は当然一朝一夕に出来たものではない。先達が小さな苗を植え大切に育ててくれたからこそ、桜は神の恵みを受けて大木となった。子どもたちのために充分その役割を果たしているのである。子どもたちは花を楽しみ、木陰で遊び、鳥の声を聴き、美しい落ち葉で様々なものを作る。冬の寒さの中で、

木の周りを走り回って遊ぶ。この桜もやがて年老いてゆくだろう。この素晴らしい環境を子どもたちのために維持するには、今の桜を大切にしながら若

主の祝福に歩んで

木を将来に向かって育てねばならない。桜は子どもたちと遊びながら年を重ね、神の御業のために成長していくからである。考えてみれば幼稚園は子どもたちが自らの将来に備える場で